

中国の風習から日本を思う
中国吉林省東北師範大学派遣者 竹中 和彦

日常生活の中で"縁起をかつくなあ"と思うことがよくあります。

例えば、数字の"8(バー)"はその発音が"発財(ファーツァイ。意味:金持ちになる)"の"発(ファー)"に近いことからとても好まれています。同じように、"7(チー)"は"起(チー。意味:何かをはじめる。事をおこす)"、"9(ジュウ)"は"永久(ヨンジュウ。意味:永久に。末永く)"の"久(ジュウ)"にかけられ好まれる数の一つです。これに対して、"4(スー)"は"死(スー)"にかけられ一般には好まれていません。

5月、6月は結婚式が多く、何回か婚礼の場に出くわしました。ある婚礼の開始時間は10時28分、別の婚礼では10時58分でした。10時半や11時とせず、最後に8がつく時間に開始することが多いようです。北京オリンピックの開会日時も8がなっていますよね。

数字に限らず縁起担ぎは非常に多く、"福到了(フダオラ。意味:福の到来)"の"到(ダオ)"と"倒(ダオ。意味:ひっくり返る)"の発音にかけて、逆さに表示した"福"という字もよく見かけます。

また、かけ(置き)時計の発音が"終わり"という意味の語の発音と同じであることから、老人に時計を贈るのは厳禁です。

考えてみると日本でも縁起にまつわる風習は多く、8(八)は末広がりめでたい意に用いられていますし、4は死を連想させることからある場面では適当ではありません。ほか、入院見舞いに鉢植えの花(根付くと寝付く)、贈り物に櫛(苦死を連想)は好まれないなど。

今月8日は旧暦の5月5日にあたり端午の節句で、友人から手作りのちまきをいただきました。日本でもやはりちまきを食べますが、中国でのこの習慣は戦国時代の詩人にちなんだものです。近年は手作りのちまきでなく、市場で買ってくる家族も多いとのこと。ちまきには餡子や肉、ナツメを入れたものなどたくさんの種類があります。いただいたものにはナツメ、干しぶどう、ピーナツが入っており、とても美味しかったです。

もうじき七夕ですが(中国では旧暦の7月7日)、日本の七夕は奈良時代に中国の習俗が伝来し、古来の伝説と結びついて今に至っています。

長春に来て、婦人の日、清明節(墓参の日)、May Day、こどもの日等を経験しました。こどもの日は朝6時から動植物園にジョギングに出かけました。6時半までは入園料がいらぬこともあり、早朝にもかかわらず既に多くの家族が来ていました。園内は動植物のほかちょっとした遊園地もあるのでとてもにぎやかです。孫の手を引く祖父母や子どもを遊具に乗せる両親を見ていると何だか懐かしい気分になりました。こういった特別な日にはいつもとは違った中国の今を垣間見ることができます。また、しぜんと日本の暮らしをおもい、中国との共通点の多さに気づかされます。次の祝日が楽しみです

(2008年6月28日)